

オンライン学習会

事業継続のための

協力の輪

の広げ方

令和4年12月7日(水)

主催：独立行政法人 福祉医療機構

協力：社会福祉法人 中央共同募金会



○開会あいさつ

1. 開催趣旨

2. 参加にあたっての連絡事項

○ 開催趣旨

民間福祉団体が制度の狭間にある課題に取り組み、地域共生社会の実現を目指すためには、事業を継続的に実施しながら、地域の協力の輪を広げていくことが望まれています。

助成金申請や次年度の事業を計画する際に、「事業継続のための協力の輪の広げ方」についてどのように構想することができるのか、この学習会において皆さまと考えます。

〇ひとこと

第1部 講師
松原 明さんより

今回の学習会では、
NPO活動をどのように持続可能なものにしていくのか。とりわけ、助成金からいかに自立し、活動を継続していくかがテーマです。

大切にしたいこと、実現したいことを
失わず、みんながハッピーになる！
事業継続の計画づくりを
一緒に学びましょう。

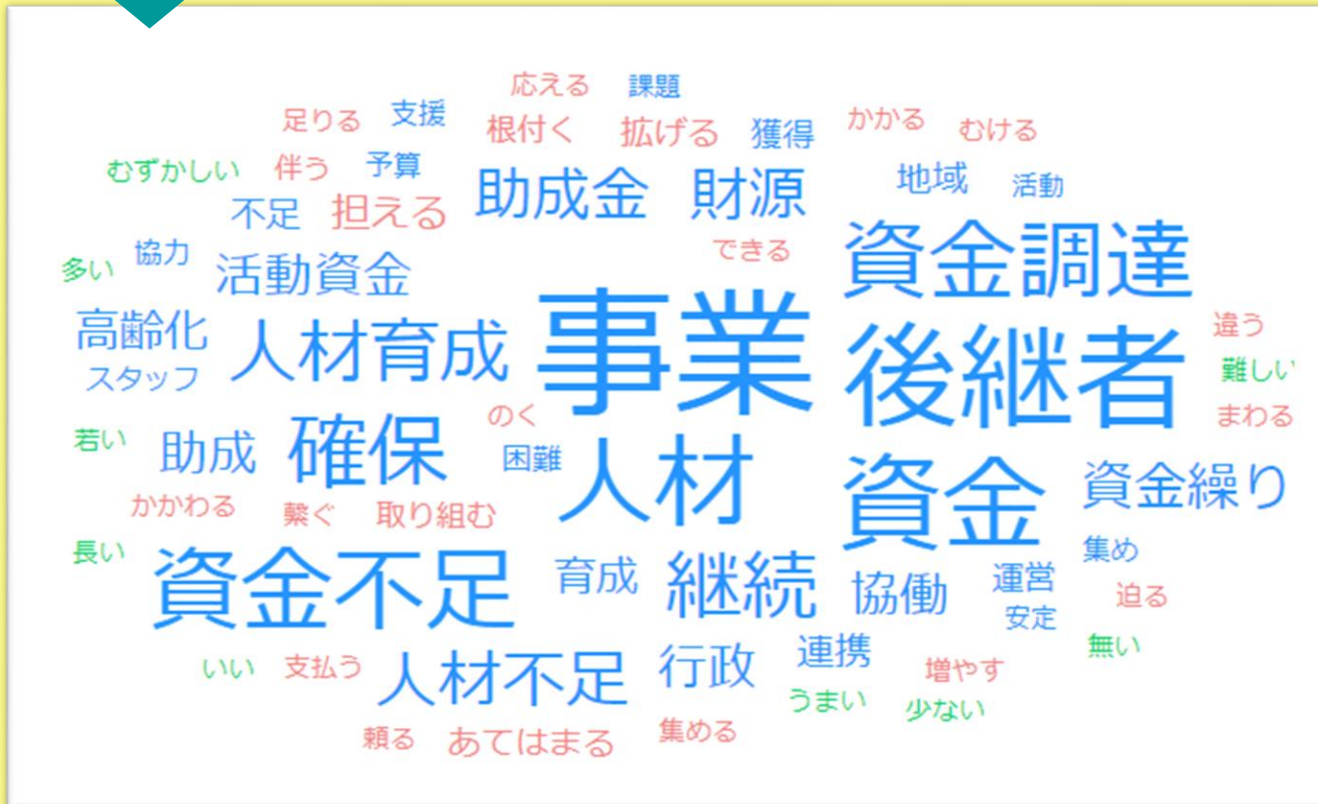
○企画の背景にある「問い」

- ・「何のために事業の継続が必要」なのか…
- ・「持続可能な地域づくり」や「地域共生社会の実現」
につながる事業を継続するにはどうすればいいのか…

○申し込みの状況

申込者：915名（暫定数値）

事業継続に関する悩み（申込時）
（234件回答／15文字で回答）



AIテキストマイニングbyユーザー
ローカル「ワードクラウド」

○申込み頂いた方々の声 (※一部、抜粋要約しています)

【事業の継続について】

- 制度の狭間の福祉活動は、支援を必要とする方などから収入を得ることが難しい。ミッションがあるならボランティアで取り組むべきともいわれるが、本当にそれが継続可能な事業の姿なのだろうか。継続可能な事業なら人件費を含めた資金は必要であると思うので、自主財源の確保や助成金との併用の事例を知りたい。
- 民間団体が主体となって、行政や教育委員会、福祉施設などと一緒に事業計画を策定し、助成金で事業を開始した場合、助成期間中に継続可能な体制をつくるにはどんな取り組みが必要か知りたい。

○本日のプログラム

13:10 開会あいさつ

13:15 第1部 講演『事業継続を見据えた計画づくりに必要な視点とは？』

講師 松原明氏

(10分休憩)

14:10 第2部 助成プログラム・事例の紹介

● WAM助成の紹介(福祉医療機構(WAM)職員)

● NPO法人トナリビト事例紹介(山下 祈恵氏)

「社会の狭間で孤立する子ども・若者を支えるセーフティーネット事業」

● 松原氏によるポイント解説・登壇者との対話



● 赤い羽根福祉基金の紹介(中央共同募金会 山内 秀一郎氏)

● 認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク事例紹介(栗林 知絵子氏)

「『WAKUWAKUホーム』ほか豊島子どもWAKUWAKUネットワークの取組」

● 松原氏によるポイント解説・登壇者との対話

● 全体に関する補足・質疑応答(進行:松原氏)



赤い羽根
福祉基金

16:05 おわりに

16:10 閉会

○参加にあたっての連絡事項

1. 登壇者資料について

➡チャットのURLのリンク先からダウンロードをお願いします。

2. 質問について

➡Zoomウェビナーで視聴されている方は【Q&A機能】を使ってご質問ください。

3. チャット機能について

➡WAMの業務連絡に使用します。

※登壇者への質問は【Q&A機能】を使って行ってください。

4. 接続不良が生じた場合

➡同じURLから参加可能です。

WAM助成のホームページから、YouTubeでリアル配信もご覧いただけます。

目標回収率100%！！

5. アンケートのお願い

➡感想や登壇者へのメッセージなどをお送りください。

オンライン学習会

事業継続のための

協力の輪の広げ方

第1部 講演

テーマ 『事業継続を見据えた
計画づくりに必要な視点とは？』

松原 明 氏

協力世界代表

元 特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事